

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2020年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会競技注意事項によって行う。

2 招集について

- (1) トラック種目の招集所は、白波スタジアムバックスタンド下、200mスタート地点側に設ける。フィールド種目は、現地にて招集を行う。
- (2) 招集開始時刻（点呼開始）及び招集完了時刻（移動開始）は競技順序のとおりとする。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場するものとして処理する。
- (4) 招集の手順
 - ①競技者は上記(2)に示した招集開始時刻には招集所に待機し、最終確認を受けること。
その際、上半身は競技服装になり、ナンバーカード・競技用靴・衣類・持ち物の点検を受けること。
 - ②ビデオ・ラジオ・CD・MD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことはできないので、あらかじめ学校関係者に預けておくこと。
 - ③招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ④代理人による招集の最終確認は認めない。但し、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに招集所に届け出ること。
 - ⑤リレー競走に出場するチームは、招集所に用意してあるオーダー用紙にオーダーを記入し、その種目の第1組の招集完了時刻1時間前までに提出すること。また、決勝においても、予選に準じて招集完了時刻の1時間前までに提出すること。用紙は競技者係から受け取ること。
 - ⑥混成競技の招集は、第1日および第2日の最初の種目については、前記の招集時間一覧表のとおり行う。第2種目以降は、競技開始時刻までに実施場所に集合すること。

3 競技について

- (1) スパイクシューズのスパイクピンの長さは9mm以下とする。走高跳・やり投については12mm以下とする。
- (2) 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- (3) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代することができる。この規則に従わなければ、チームは失格となる。
- (4) トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者がでたとき（以下同タイム者という）は、写真判定機で拡大し、細部（電気計時1/1000）まで読み取り着差の判定をする。それでも判定できない場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。
- (5) 4×400mRの第3・第4走者は、前走者が200mスタート地点を通過した順序で、内側より並び待機する。その後、待機している走者は、この順序を維持しなくてはならず、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。違反した場合は、そのチームを失格とする。なお、バトンを渡し終えた走者は他チームの進路を妨害しないようにすること。
- (6) 800mの予選はオープンレーンとし、準決勝・決勝については100mまでをセパレートレーンとする。
- (7) 男子5000m・3000mSC、女子1500m・3000mについては、タイムレースとする。

- (8) 三段跳の踏切板の位置は、審判長の判断で決定する。
- (9) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて審判員の指示に従うこと。
- (10) フィールド競技においてカットラインを設けることもある。設ける場合は監督会議で示す。

4 ナンバーカードについて

ナンバーカードはユニフォームの胸部と背部につけること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳は胸部または背部のみでもよい。また、トラック競技出場者は、招集所で配付される写真判定用の腰ナンバーカードを右後方につけること。

5 競技場の中に商品名のついた衣類・バックを持ち込む場合について

- (1) 日本陸上競技連盟広告規程を適用する。
- (2) 競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。

6 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝については、本部がルールに則り、組み合わせ、レーン順を決定する。フィールド競技の決勝については、3回の試技で上位8人を選出し、記録した成績の低い順に、あと3回の試技をする。

7 競技用具について

競技に使用する用具は、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用のポールに限り個人所有のものを使用することができる。やり・円盤・ハンマーに関しては個人所有のものであっても検査を受けて使用することができる。但し、検査を受け、認定された用具は本競技場の所有用具として取り扱い、競技終了まで返却しない。

8 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

- (1) 走高跳、棒高跳における練習および競技中のバーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、下記のとおりとする。なお、気象条件等により変更することもある。

[男子]

走高跳 1.60 (練習) 1.65-1.70-1.75-1.80-1.83-1.86-1.89 (以後3cm上がり)

棒高跳 2.40 (練習) 2.60-2.80-3.00-3.10-3.20-3.30-3.40 (以後10cm上がり)

[女子]

走高跳 1.25 (練習) 1.30-1.35-1.40-1.45-1.50-1.53-1.56 (以後3cm上がり)

棒高跳 1.90 (練習) 2.00-2.10-2.20-2.30-2.40-2.50-2.60 (以後10cm上がり)

- (2) 混成競技走高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。

八種走高跳 1.35 (練習) 1.40-1.45-1.50-1.55-1.60-1.63-1.66 (以後3cm上がり)

七種走高跳 1.05 (練習) 1.10-1.15-1.20-1.25-1.30-1.33-1.36 (以後3cm上がり)

※スタートの高さについては選手の状況をみて柔軟に対応する。

- (3) 第1位が同成績の場合における順位決定のバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。

9 結果発表と抗議について

- (1) 各種目の結果発表は大型映像で行う。また、競技場正面玄関近くに印刷物で表示する。
- (2) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果が正式発表されてから、競技規則146条に定められている時間内(予選15分以内、決勝は30分以内)に、競技者本人または代理人が、担当総務

員を通じて口頭で行い、別室で待機する。さらにその裁定に不満の場合は預託金（1万円）を添え、担当総務委員を通じて上訴審判委員に文書で申し出ること。なお、正式発表の時刻とは、大型映像表示時刻とする。

10 表彰について

- (1) 各種目とも3位までの入賞者は表彰をするので、競技終了後、正面スタンド下中央通路の表彰控え所に集合すること。各校の競技用ユニフォーム（下はジャージ等着用）で表彰を受けること。
- (2) 団体の表彰は、男女別に総合、トラック、フィールドの部のそれぞれ3位まで行う。なお同得点の場合は、上位種目の多い学校を上位とする。
- (3) 入賞者の得点は、1位6点・2位5点・3位4点・4位3点・5位2点・6位1点とする。

11 その他

- (1) 監督は常に選手を掌握し、万一選手に事故があった場合には競技本部に連絡すること。
- (2) 事故については応急処置のみを行い、以後、各参加校の責任において処置すること。
- (3) 貴重品の保管については各自が行う。もし盗難にあっても責任を負いかねるので十分注意すること。
- (4) 記録の証明を希望する競技者は、庶務係に300円を添えて申込み、10分後に受け取ること。
- (5) 当日の記録は、競技場正面掲示板に掲示する。
- (6) 競技場内での写真撮影は、大会本部の許可を受けること（報道カメラマンのみ許可する）。
- (7) すべての応援はスタンドで行うこと。ただし、正面スタンドにおける集団での応援は禁止する。また、フィールド競技の進行に配慮すること。
- (8) 各種目3位までの入賞者は、全九州大会の出場権を得る。確認作業のため、表彰の後に必ず本部席まで集合すること。
- (9) 参加・応援のマナーについて
 - ・会場への公共交通機関内でのマナー及び自転車等の交通マナーを守ること
 - ・会場や周辺のコンビニ・施設等におけるマナーを守ること
- (10) 個人情報は本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。

個人情報の取り扱い ①大会プログラム掲載。

②競技場内でのアナウンス等による紹介。

③電光掲示板・掲示板等への掲載。

④競技結果の報道機関・報告書等への掲載。

⑤新記録や優勝結果等の大会プログラム（次年度以降）への掲載。

⑥報道機関が撮影した写真・映像の公開。

【競技会で使用する略語・略号】

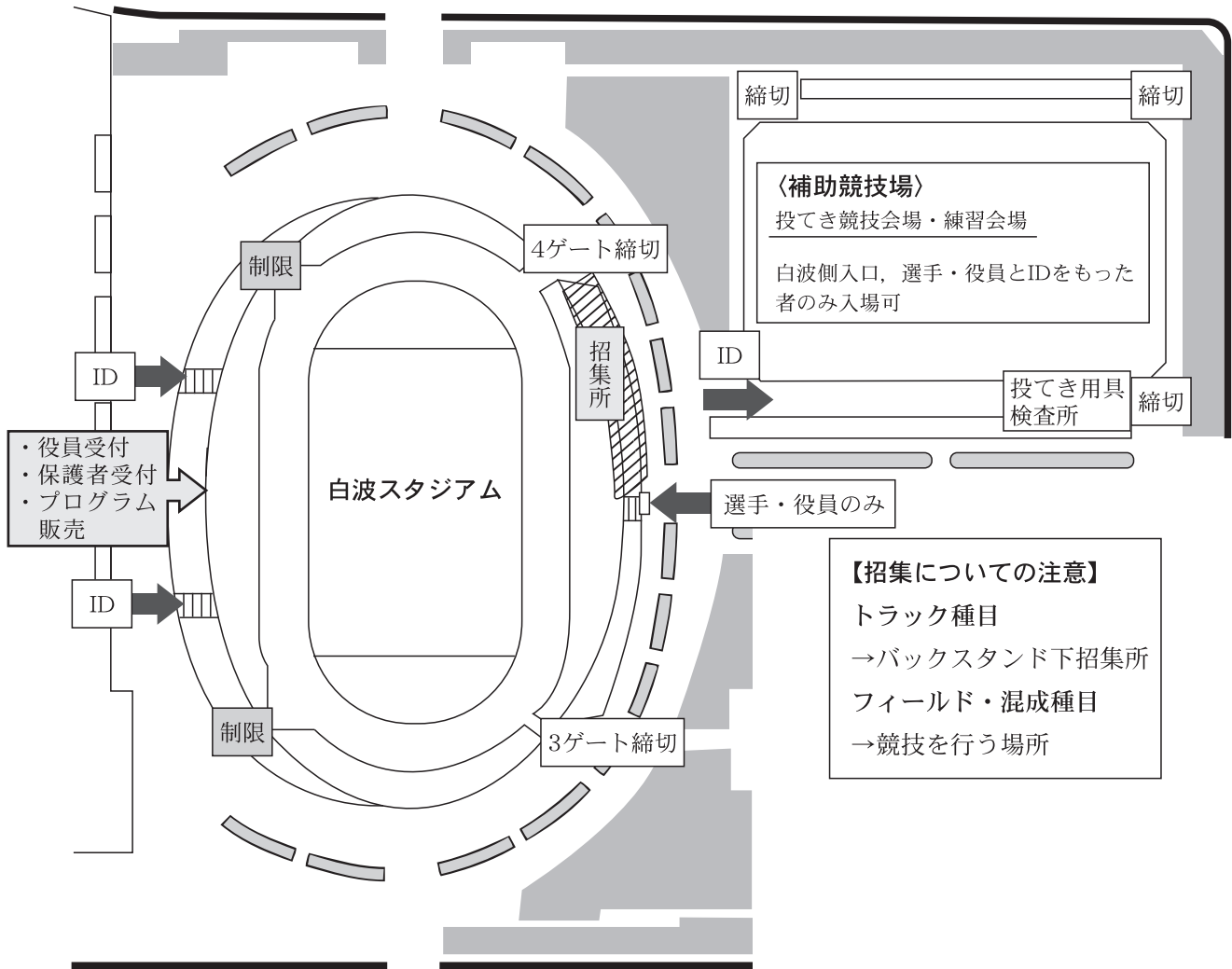
NR	日本記録	(National Record)	DQ	失格	(Disqualified)
=NR	日本タイ記録	(Equal National Record)	Q	順位による通過者	(Qualified)
NJR	ジュニア日本記録	(National Junior Record)	q	記録による通過者	(qualified)
GR	大会記録	(Game Record)	○	成功（有効試技）	(Cleared)
=GR	大会タイ記録	(Equal Game Record)	×	失敗（無効試技）	(Failed)
NM	記録なし	(No Marks)	—	パス	(Pass)
DNS	欠場	(Did Not Start)	r	試技放棄（離脱）	
DNF	途中棄権	(Did Not Finish)	厚	厚底シューズ使用	

練習会場と使用時間について

会場	種目	23日(水)	24日(木)	25日(金)	26日(土)	
白波スタジアム	トラック & 跳躍	大会準備終了後 ～ 18:00	7:30～9:30 競技終了～18:00	7:30～8:40 競技終了～18:00	7:30～8:40	
	投てき	※ 芝生内は、練習禁止				
補助競技場	トラック & 跳躍	使用不可	7:30～17:00	7:30～17:00	7:30～15:00	
		※ 芝生内は、練習場係の指示に従う(投擲優先)				
	投てき	会場準備終了後～16:00 砲丸投・ハンマー投 円盤投・やり投 ※ハンマーは3投以内	10:00～13:00 ハンマー投競技会 13:00～16:00 やり投競技会	9:30～14:00 やり投げ競技会 14:00～16:00 円盤投競技会	8:30～11:30 円盤投競技会 11:30～12:40 やり投競技会	
		16:00～17:00 回復作業	※上記時間外は練習場係の指示に従う			
		砲丸投は競技の行われている時間以外は使用可(練習場係の指示に従う)				
※指導者付き添いのもと、安全に留意して行うこと。 ※ハンマー投の投擲練習は芝養生のため指定された日時点で1日当たり3投以内とする。 投擲痕は各自で整地を行うこと。 ※練習場係の指示に従うこと。						

留意事項	1 ホームストレート 1・2レーン 周回練習レーン 周回連続使用可 3～6レーン スタートダッシュレーン スタブロ設置可 7・8レーン 100mH・110mH練習レーン スタブロ設置可
	2 第1曲走路～バックストレート～第2曲走路 1・2レーン 周回練習レーン 周回連続使用可 3～6レーン リレー・短距離レーン スタブロ設置可 7・8レーン 400mH練習レーン スタブロ設置可 ※ 3～8レーンは第2曲走路からホームストレートへ走り込むことを禁止する(事故防止)。
	3 レーン上に個人の道具類(ミニハードルやラダー等)を置いて占有しないこと。 補助の芝生内でのジョギングや動きづくり、道具類の設置などは練習場係の指示に従うこと。
	4 バックスタンド下の雨天練習場は、招集所として使用する。練習禁止。

《会場図》



【控え場所としての場所取りについて】

- ◎開門は7時30分。各団体2名ずつ間隔をとり順番に並ぶ。入場の際は順番に整然と入る。
- ◎できるだけ多くの団体が入れるよう、必要最小限度のスペースとする。
- ◎各団体間は必ず2メートルあける。
- ◎屋根のある所はシートのみ。両サイド芝スタンドならびに補助競技場は熱中症対策のため屋根付きのテントも可とするが、横幕はあける。(ドーム型のテントは禁止)
メイン側コンコースは中央部分、バックスタンド側コンコースはトイレ側を1メートルあけて必ず通路を確保する。
- ◎バックスタンド正面入口より右側コンコース部分と雨天練習場は招集所になるので場所取り禁止。
- ◎場所取り用に張ったテープは必ず撤去する。(使えるテープは養生テープのみ)

【連絡事項】

- ◎選手・監督・コーチ・応援者(許可された者)・審判員しか入れない。
選手、監督・コーチ・審判員は特に制限は設けないが、応援者は図でIDと表記されている所しか入れない。
- ◎投てき用具検査は補助競技場器具庫で行う。
競技開始120分前から70分前までに各自で直接行き、検査を受ける。
- ◎各場所での審判員や補助員への暴言など固く禁じる。
- ◎体調の悪い方の入場を禁止する。
- ◎手洗い、必要な場所でのマスク着用など感染症予防対策を各自行い、ごみ等必ず持ち帰る。